

仙台市地震防災アドバイザー室へようこそ!



いつもご覧いただきありがとうございます。
今回の更新で34回目となりました。
100万人の防災!
自助・共助で乗り切る 宮城県沖地震!

■地震防災、これほんとは?

平成21年11月27日掲載

昔からよくそういわれている・・・
おばあちゃんがそう言ってたもん・・・
みんながそういう風に言っていた!・・・
だけど・・・

それってほんとなの!

よく市民の方から言われる地震についての言い伝え。
でも、それは本当の話なのでしょうか。

地震にまつわる話はとても多いですが、間違って伝えられていることもあるんじゃないかな?

ちょっと考えて見ましょう。

○「地震は大なまずが暴れて起こる」

科学が進んだ今はそんなことはないのは明らかですよね。



○「津波は一度引いてから襲ってくる」



必ずしもそうとは限りません。突然襲ってくることもあります。

地震を感じたら海岸に近いところにいる方は、とにかく**海から離れ高いところに避難**しましょう。

○「家にいるとき地震があったらトイレに逃げ込め！」

トイレは家の中でも狭い空間ですので柱や壁に囲まれて丈夫だといわれていますね。
だけど、一階全体がつぶされてしまってトイレ部分だけが残ってるなんてことはないですよ。
大事なものは建物自体の耐震です。





○「私は水泳大得意！津波が来ても泳いで逃げちゃうもん。」

水の力は侮れません。高さ50センチメートルの流れでも足を取られてしまいます。まして津波は、自らが破壊した建物の残材などと一緒に襲ってきます。水泳のオリンピック選手でも泳いで逃げるのは無理だと思いますよ。



○「すわっ！ 地震だ！ すぐ火を消せー！」

落ち着いてください！いまはすぐに火を消さなくても大丈夫なことが多いです。コンロが都市ガスなら、マイコンメータが地震を感知して自動で止まります。ストーブは、耐震装置がついているのでこれもまた自動でとまります。無理して火を消しにいったら逆にやけどすることもあります。仮に火が出ても揺れは1分程度で収まりますから、それから消しても十分間に合います。

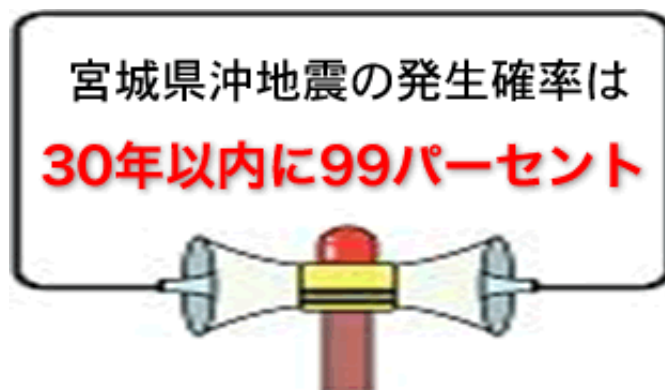


○「あっ。あれは地震雲じゃないか！」

地震の際に現れるという雲。実は根拠がありません。

○「地震なんて全然こないじゃん。ほんとはこないんじゃない。」

地震がくる日時が分かれば亡くなる人は「ゼロ」にできます。



地震が発生すると様々な情報が入ってきます。うわさや根拠のない言い伝えをう呑みにしないで、正確な情報を入手するようにしましょう。

《宮城県沖地震の記録》

1978年に発生した宮城県沖地震の写真を掲載します。
過去の教訓を忘れずに！



被害を受けたガスホルダー